

次世代モビリティ利活用促進のための将来ビジョンとロードマップ策定に向けたイメージ

調査結果（仮）	将来ビジョン骨子案	ロードマップ
<p>1. 海の次世代モビリティを巡る状況の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 現状調査 2020年の世界海洋産業のGDPは2.6兆ドルで成長傾向であった。今後も成長を続けるためのカギは海洋DXをはじめとする効率化であり、海洋ロボティクスはその一端を担うものと期待される。 ● 1-1. 導入メリットの整理 第9回協議会 水産業、海洋調査、海洋工事の分野で社会実装が進んでおり、一部で省人化、効率化が実現している。 ● 1-2. 経済波及効果の分析 離島地域の養殖業で海の次世代モビリティを導入する経済効果を試算したところ、一定の地域経済への好影響が期待できることが分かった。 ● 1-3. 社会実装に向けた課題（ユーザー側） 社会実装に向けては、「法制度・規制に関する課題」や、「社会実装を促進するための制度的な課題」が抽出された。 ● 2-1. 海洋DXと次世代モビリティを活用した事例調査 海洋DXへの推進に不可欠な基盤技術であることが明らかになった。デュアルユース、活用分野の拡大（淡水域、衛星）の事例を整理した。 ● 2-2. 諸外国の次世代モビリティに関する戦略 人的リスクの低減と安全性の確保、運用効率の向上とコスト削減、データ収集能力の拡大、国際競争力の強化及び新産業の創出への貢献といった目的で、米国、英国、ノルウェー、韓国、ドイツで国家戦略が策定されている。 ● 3-1. 国際競争力 第11回協議会 我が国の多様用途に迅速に対応するために国産化ニーズが認められた。次世代モビリティを輸出産業に発展させるための技術開発の必要性が認められた。 ● 3-2. 実証フィールド 海の次世代モビリティの開発に利用できる実証フィールドは国内にいくつか存在するが、開発側のニーズ満たしきれていない。 ● 3-3. 国産化に向けた課題（開発側） 海の次世代モビリティの国産化に向けて、コアとなる技術要素と開発すべき技術要素とカギとなるサプライチェーンについて調査を行った。 	<p>将来ビジョン骨子案</p> <p>ビジョン① 沿岸域・離島の課題対応のための海の次世代モビリティの活用促進</p> <p>人口減少が急速に進んでいる沿岸域・離島で、海の次世代モビリティは産業（水産業、海洋土木）の省人化、無人化に貢献できる。また、海の次世代モビリティを導入することで地域経済の好循環に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 沿岸域・離島における産業の省人化・無人化の実現（1-1） 水産業、海洋土木 ● 沿岸域・離島の海洋インフラの維持（1-1, 企業ヒアリング） ● 沿岸域・離島の環境保全（1-1） ● 防治岸域・離島の防災、減災（1-1） <p>ビジョン② 海洋DX等、海洋利用・保全への貢献</p> <p>海洋産業の成長に効率化や海洋DXの実現が必要である。海洋DXの実現に海の次世代モビリティは貢献できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海洋DXへの貢献（2-1） 産業の無人化、省人化、データ活用の強化 ● 海洋環境保全への貢献（1-1, 企業ヒアリング） 環境モニタリング、ブルーカーボン（委員コメント） ● 安全保障分野とのデュアルユース（企業ヒアリング、委員コメント） ● 防災、減災（企業ヒアリング） ● AIを活用した新ビジネス（2-1） <p>ビジョン③ 海の次世代モビリティ供給産業の確立</p> <p>今後の市場拡大や、多様なニーズに応えるため、海の次世代モビリティの国産化を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界及び我が国の市場規模、将来予測（現状調査） ● 技術開発の促進（3-1, 3-3） コアとなる技術要素、開発すべき技術要素、国際競争力、輸出産業化 ● 実証フィールドの整備（3-2） ● サプライチェーンの構築（3-3） ● 人材の育成（企業ヒアリング） 	<p>ロードマップ</p> <p>ビジョン① 沿岸域・離島の課題対応のための海の次世代モビリティの活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術開発（短期・中期・長期、サイズ別） ● 制度的課題（短期・中期・長期、サイズ別） <p>ビジョン② 海洋DX等、海洋利用・保全への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術開発（短期・中期・長期、サイズ別） ● 制度的課題（短期・中期・長期、サイズ別） <p>ビジョン③ 海の次世代モビリティ供給産業の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術開発（短期・中期・長期、サイズ別） ● 制度的課題（短期・中期・長期、サイズ別）
<p>2. 企業ヒアリング結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 法制度・規制に関する課題の調査 自律運航船や小型USVを対象とした制度の整備、現行規制の緩和、海域利用手続きの簡素化を求める声があった。 ● 社会実装に向けた環境整備に関する課題の調査 実証フィールド等の拠点の整備や、ロボティクスを用いることの受注インセンティブ、人材育成についての声があった。 	<p>今後の取り組み等</p> <p>これまでの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実証事業の実施 ● 産学官協議会の実施 ● ● ● <p>今後の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実証事業の実施 ● 産学官協議会の実施 ● ● 	